



資料 6 - 1

# 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第3期 「スマートモビリティプラットフォームの構築」

---

令和5年7月24日

内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局



# 課題・ミッション・目指すべき姿

## ■ 社会実装に関わる現状・問題点

地域公共交通を支援する  
ビジネスモデル、諸制度の  
硬直性

スマートモビリティサービスの  
実現に向けた資源の組み  
合わせが不十分

物流システムの人力依存  
と持続可能性の課題

物流MaaSを荷姿統一、  
データ共有・連携を通じ更  
に効果的にする必要性

移動情報に関するデータ  
コミュニティの不在、モビ  
リティサービスを支えるデータ  
基盤がモザイク化、サイロ  
化して利便性が高くない

大きな道路への投資集中  
と小さな道路の看過

ヒト・モノ・ビジネスの多様・  
重層的なコミュニティ形成  
の必要性

人々の健康維持・増資に  
向けた安全な移動手段  
確保の必要性

### 課題解決に 向けた取組 (ミッション)

移動する人・モノ・サービスの視点から、地域に存在する伝統的な公共交通手段に加えて、自家用車、貨物車などの広範なモビリティ資源や新しいモビリティ手段の活用を可能にするようなハードとソフト双方のインフラとこれらを包み込むまち・地域をダイナミックに一体化し、安全で環境にやさしく公平でシームレスな移動を実現するプラットフォームを構築

## ■ Society 5.0における将来像（目指すべき姿）

「自由に自立して安全・快適に環境・他人・まちに優しく皆が、モノが、サービスが移動できるモビリティディバイドない社会」に向けて

スマートモビリティプラットフォーム（スマートモビリティ2.0）の実現を目指す

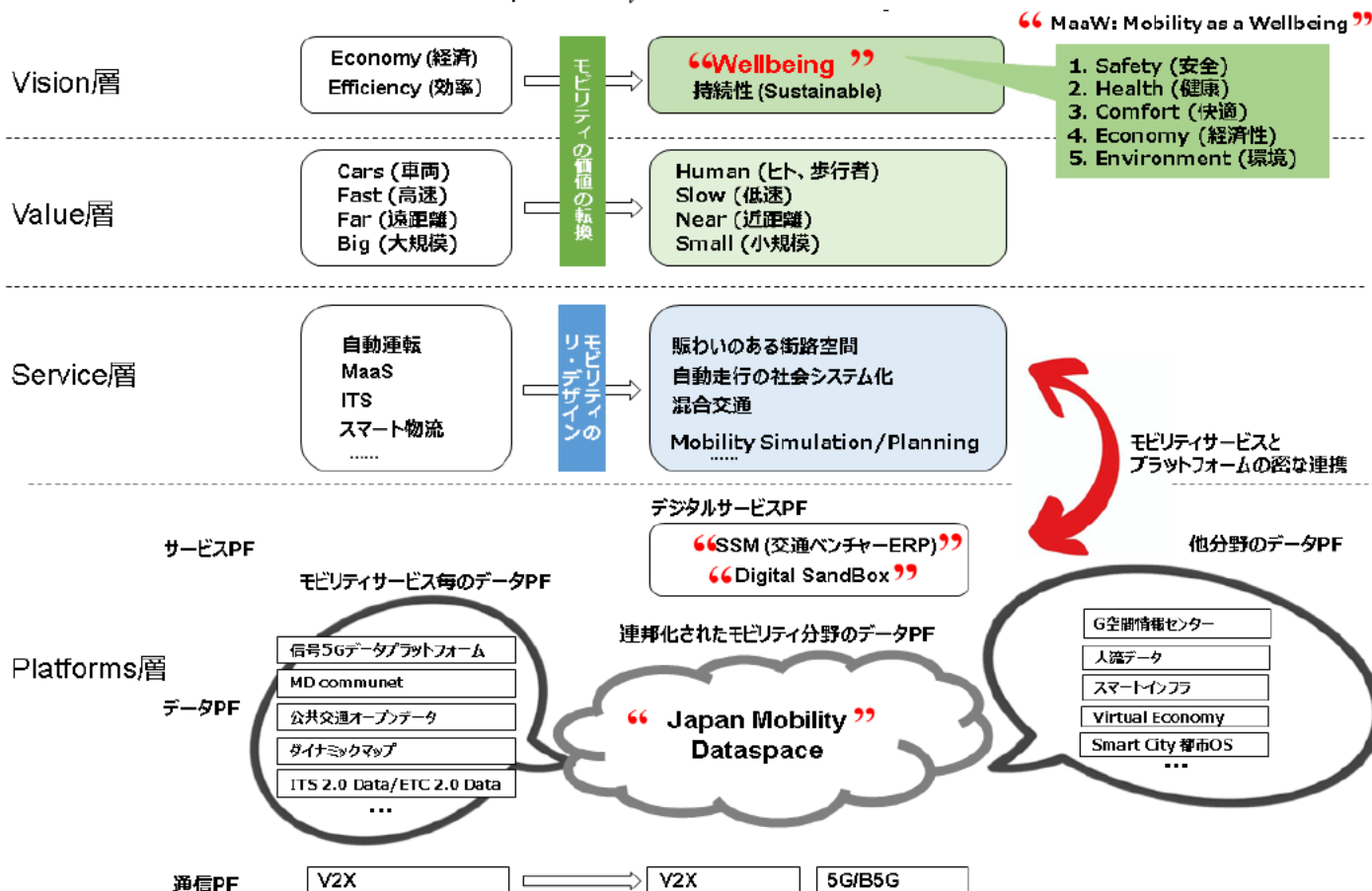
# スマートモビリティ2.0とは

「スマートモビリティ1.0」(現状 下図 左部分)  
 交通や移動の効率性や機能強化に価値を置き  
 その価値を追求にむけたサービス展開を重視。  
 『高速』・『遠距離移動』・『大規模』といった  
 重厚長大型のスマートモビリティ

「スマートモビリティ2.0」(目指す姿 下図 右部分)  
 安心・健康・快適にも価値を置き  
 『低速』・『近距離』・『小規模』といった視点に着眼し  
 地域における医療介護・少子高齢化・教育などの  
 課題の解決や健康の維持・増進を図る社会、  
 ウェルビーイング実現に向けたモビリティ

## 「スマートモビリティ1.0」

## 「スマートモビリティ2.0」



# 全体構成・実施方針

ミッション実現に向け、以下3つのサブ課題を設定

サブ課題Ⅰ モビリティサービスの再定義と社会実装に向けた戦略策定を進める

サブ課題Ⅱ モビリティサービスを支えるインフラのリ・デザインに向けた研究開発

サブ課題Ⅲ スマートモビリティサービスの実験・実装・ビジネス化を支援する装置・仕組みの開発

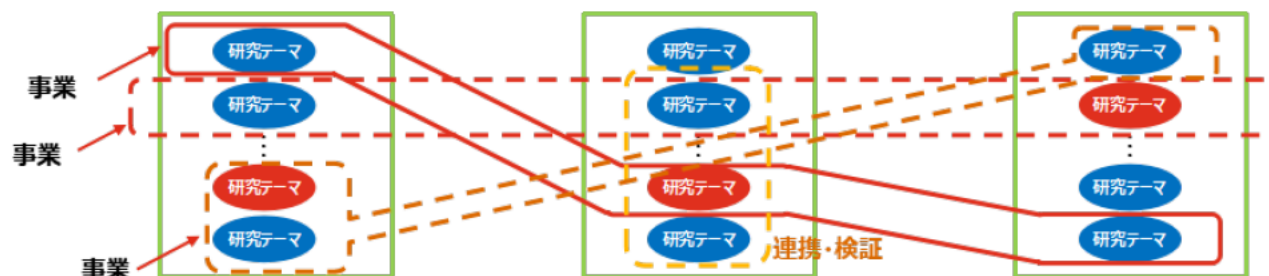
3つのサブ課題は19の研究開発テーマで構成（次ページ以降参照）

各テーマは独立して存在するものではなく、各サブ課題を組み合わせた形で推進する「メニュー方式」で事業を実施  
各研究開発テーマに閉じない一体的な研究開発を推進

サブ課題のテーマ設定の考え方



研究開発の事業推進のイメージ



## I. モビリティサービスの再定義、社会実装に向けた戦略策定

- ・持続可能でレベルの高いモビリティサービスの実装を推進、モビリティ資源等を最大限に活用するための**モビリティサービスのリ・デザインの計画指針**を作成
- ・自治体等と連携して**リ・デザインの実践**を推進
- ・データ連携と荷姿の共通化による**効率的・省人的な物流システムの戦略**を構築

### I-1. 人のモビリティを確保する「モビリティ・リ・デザイン」レポート（計画指針）の作成

①地域モビリティ資源の**実情把握**

②地域モビリティ診断ガイドラインとモビリティ・リ・デザイン・シミュレーションモデルの開発

③地域創生に資する総動員**チップス（ヒント集）**の作成

④地域モビリティ・リ・デザイン・レポート（**計画指針**）の作成と日本発**リ・デザイン指標**の開発

### I-2. モノの移動を確保する物流MaaS

⑤物流MaaSの**実情把握**と構築に向けての**戦略構築**

### I-3. モビリティ・リ・デザインの実践

⑥**タクティカル・モビリティ・リ・デザインの実践**

## 手段としての研究開発 3つのサブ課題と19テーマ ②

## II.モビリティサービスを支えるインフラのリ・デザインに向けた研究開発

- ・生活道路の事故多発、市街地の賑わい喪失などに対処  
→街路構築論、環境センシングとV2X技術等による安全な歩行者空間実現のための技術、データ活用等による緊急時ブレーキ等の**事故防止策の検討**、モビリティ関連の**データ基盤整備**、**デジタルサンドボックスの構築** 等に取り組む。

## II-1.安全、快適、豊かで活気ある生活道路の実現に向けた交通インフラの研究開発、実証

⑦安全・安心・賑わいのある**みち空間と交通システム構築**⑦-1 都市内小道路の現況把握と**政策モニタリングシステム構築**⑦-2 既存市街地の**街路網構成計画論の構築**⑦-3 走行速度規制を中心とした**事故防止の具体策の提案と社会実装**⑦-4 生活道路・賑わい道路を取り巻く**社会的受容性・協働性の獲得とルール作り**⑦-5 死亡者を発生させない都市内道路小道路・賑わい道路の実現のための**方策の提案と社会実装**⑦-6 四輪・二輪・歩行者等の道路上の交通事故等のリスク低減に向けた**交通インフラの研究開発**⑦-7 安全な歩行者空間実現に向けた、**V2X技術の開発、及び信号情報配信等の高度化、実証**⑦-8 最先端計測技術を活用した生活ゾーン・賑わいのある**道路空間の実態把握システム開発に向けた検討**⑦-9 **制度、ルールの提案**

## Ⅱ.モビリティサービスを支えるインフラのリ・デザインに向けた研究開発

### Ⅱ-2.スマートモビリティを支える制度・慣習への切り込み

⑧スマートモビリティサービスの提供がより容易になるようなマーケットデザインの経済学的研究

### Ⅱ-3.モビリティサービスを支えるデータ基盤（デジタルシステム基盤）の整備

⑨多種多様なモビリティプラットフォーム/関連データの統合・相互利活用基盤の構築、実証

⑩安全・快適・豊かなモビリティの実現のための、サイバーフィジカル型道路空間デジタルシステム基盤（デジタルサンドボックス）の構築

⑪都市OS上のモビリティ対応サービスの開発

### Ⅱ-4.自動走行技術の活用による新たなモビリティサービスの構想

⑫リ・デザインに資する車両、インフラ等の要件抽出

⑬自動走行の社会システム化

### Ⅲ.スマートモビリティサービスの実験・実装・ビジネス化を支援する装置・仕組みの開発

- ・モビリティサービスの再定義、リ・デザインによる**地域モビリティ資源の実装**  
→デジタルサンドボックスを活用し**社会実験を推進**  
業務運営を効率化するシステム基盤構築、地域のモビリティサービスを担える人材育成を実施

#### Ⅲ-1.デジタルツインに根差したデジタルサンドボックスの構築と活用

⑭ **社会実験地域の公募と評価**

#### Ⅲ-2.コミュニティ形成手法・アプローチの開発

⑮ **地域モビリティ資源のサービス実装に向けた地域・モビリティ・ビジネス・データコミュニティ形成**

#### Ⅲ-3.人材育成・スタートアップ支援としてのコンテスト開催と事業化支援

⑯ **スタートアップ等の事業者間のモビリティデータシェア・共有が可能な基盤となるSSM (Shared Service for Mobility) の構築**

⑰ **国際連携の推進**

#### Ⅲ-4.地域モビリティ資源を活かしたサービス実装、マーケットデザインと評価のあり方、人材育成

⑱ **地域モビリティ資源を生かした地域の類型化・特定に向けた実践的調査 (アクションリサーチ) 普及展開活動**

⑲ **サービスの社会実装に向けた人材育成**



## 事業の概要

### ■ 事業内容

- 名称 : 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第3期
- 課題名 : 「スマートモビリティプラットフォームの構築」  
(PD : 石田 東生 (筑波大学) )
- 概要 : 「移動する人・モノ・サービスの視点から、地域に存在する伝統的な公共交通手段に加えて、自家用車、貨物車などの広範なモビリティ資源や新しいモビリティ手段の活用を可能にするようなハードとソフト双方のインフラとこれらを包み込むまち・地域をダイナミックに一体化し、安全で環境にやさしく公平でシームレスな移動を実現するプラットフォーム」のミッションの実現に向けて、モビリティ資源の再定義と社会実装の推進、インフラのリ・デザイン、スマートモビリティサービスの実験・実装・ビジネス化の支援について取組みます。

## 研究開発公募の概要

### ■ 提案方式

- ・ 3つのサブ課題の研究課題を組み合わせた「メニュー方式」
- ・ 19の研究課題から提案する研究課題を選択（複数選択可能）

（選択する課題が複数となる場合、中心的課題を一つまたは複数選択し、補完する形で他の研究課題を選択して、研究計画で提案内容全体の意図と、課題相互の関連性と構成を明確にする）

（例：生活道路での自動車運転速度の抑制を目指し、装置の配置論の検討、デジタルサンドボックスでの検証及び制度面の対応に向けた取組を一体的に実施することの提案）

\* NEDOが別途委託する調査分析・業務支援機関及びNEDOが本事業を行うにあたり必要と認められた者に対し、必要に応じて提案書等を提供いたします

### ■ 事業期間

NEDOが指定する日から2028年3月31日まで

- ※ 契約については、原則として2023～2025年度の複数年度契約の予定。
- ※ 提案は、2023年度～2027年度の5年間について記載してください。

### ■ 予算規模

予算限度額は、2023年度総額で1,662百万円以内です。

（後年度の事業規模も同様を予定していますが、政府予算案等の審議状況や政府方針変更等またSIPは毎年度の評価結果等を踏まえた予算の配分額の決定及び調整が行われるため、事業規模は変動することがあります。）

## 公募スケジュール

2023年

7月3日（月） 公募開始

7月14日（金） 公募説明会 Webオンライン、13時30分～14時30分

8月10日（木） 公募締切 正午アップロード完了

9月上旬～中旬（予定） 採択審査委員会の実施

- ・ 採択審査委員会では必要に応じてヒアリングや資料の追加等 をお願いする場合があります。
- ・ 委託先選定は非公開で行われ、審査の経過等、審査に関する問い 合わせには応じられません。

9月下旬（予定） 採択・不採択の通知

9月下旬（予定） 実施体制の公表